

令和7年度 議会報告・意見交換会を通し、テーマとした「議会・議員の在るべき姿」について、いただいたご意見の一部となります。

- ・知り合いが議員になったら議会が身近な存在になった。
- ・市民と話す機会をもっとつくってほしい。
- ・今まで都会に住んでいたので、議員が何をしているのか特に興味がなかったが、この意見交換会で議員との距離の近さを感じた。
- ・地元議員はもちろん身近。地元議員でなくても、興味のある政策に取り組んでくれたら頼もしく身近に感じる。
- ・議員には一緒になってまちづくりに取り組んでもらっている。
- ・まちづくり委員会などの場で議員と接する機会があるので、まちづくり委員会の役員以外は、議員は遠い存在だと思う。
- ・議員がいる地域、いない地域との地域間格差が出てはいけない。
- ・これから先を担う、若い人の関心があるかないかが問われている。
- ・若い世代は、議員と議会に接点を持つことが少ないと思う。その接点をどうつくるかが課題。
- ・こうした場に出てくるのは60代以上が大半。60代以上の考え方が全てだと思えば、将来を見誤ることになる。
- ・定数はこれが最低。議論できる場をつくっておかないといけない。
- ・議員定数は、選挙にならなかったから減らすべきではないか。
- ・もっと勉強して、パフォーマンスで終わらないようにしてほしい。
- ・チェック機能を果たしてほしい。
- ・政策提言をして市民のために機能してほしい。
- ・議会だよりを参考にしている。
- ・議会だよりは市民に近い表現にしてほしい。
- ・一般質問は、議場で聞くと臨場感がある。
- ・議会でやっていることがよく分からない。
- ・選挙がないと議員が身近に感じられない。どんな議員がいるのか分からない。
- ・立候補が増えれば選挙になっていた。どうすれば増えるのか、市民も議会も考えていく必要がある。